

国際リニアコライダー（ＩＬＣ）の実現を求める決議

国際リニアコライダー（ＩＬＣ）は、宇宙誕生や質量の起源など、人類存在の核心に迫る謎を究明する研究施設であり、日本が世界に、そして人類に対して大きく貢献することのできる施設である。

また、基礎科学の研究に飛躍的な発展をもたらし、世界最先端の研究を行う多くの人材が定着・交流する国際科学技術イノベーション拠点の形成や、精密実験を支える先端産業の集積につながるものであり、科学技術創造立国の実現や高度な技術力に基づくものづくり産業の成長発展に大きく寄与し、日本再興や地方創生にも資するものである。

ＩＬＣの国内誘致に向けては、研究者・自治体・民間団体等が一体となって取り組んできたところであり、文部科学省の有識者会議の検討を終え、日本学術会議での検討が始まるなど、国においての議論も活発化している。

一方で、ＩＬＣの誘致については、莫大な建設費用が大きな課題とされており、国においても慎重な検討が進められてきたが、昨年11月にカナダで開かれた国際将来加速器委員会（ＩＣＦＡ）において、直線距離を短縮し、施設を段階的に建設する新計画が承認された。この計画により、コスト面での課題が解消することが期待されている。

来年には、欧州において次期欧州素粒子物理学5か年戦略の検討が始められる。欧州をはじめとした世界各国からＩＬＣ計画への参加、協力を得ていくためにはこの戦略にＩＬＣ計画が盛り込まれなければならない、そのためにも国が誘致に前向きな方向性を早期に打ち出すことが必要不可欠である。

よって、岩手県議会は、国に対し、我が国の成長戦略に貢献し、世界に開かれた地方創生の原動力となるＩＬＣ誘致について前向きな方向性を早急に打ち出すよう強く求めるとともに、誘致実現に向けた活動を強力に推進し、ＩＬＣ計画への国民の理解を深め、全国的な機運醸成が図られるよう全力で取り組むものである。

上記のとおり決議する。

平成30年10月15日

岩手県議会